



名寄市立大学の窓から

vol.69

知への誘い

基礎看護学を通して学生にエールを送り続けたい

保健福祉学部 看護学科 教授 畑瀬 智恵美



学生と向き合っています。

今日、人々の健康に対する意識が高まり、健康課題や価値観が多様化する中で、保健・医療・福祉分野のニーズに多職種連携・協働する力が看護職に求められています。

看護職を輩出する本学の看護学科において、学生が最初に学ぶ看護学が基礎看護学です。基礎看護学はその後に学ぶ各看護学および在宅看護論の基盤となる基礎的理論や基礎的技術を学ぶ領域です。中島みゆきの「糸」を借りますと、縦の糸は対象者の食事や排泄等の日常生活援助、診療過程の援助、横の糸は看護過程を展開する力、コミュニケーション能力、ヘルスアセスメント能力、倫理観、安全・安楽を確保する能力、看護観などで、織りなすあなたがい看護を提供できる看護者になってほしいと願い、

基礎看護学を学ぶ学生は、低学年であることから、生活経験が乏しいため、学習者としての姿勢、看護の基礎・基本を学ぶことができないよう、私自身がリフレクシオンしながら学生と対峙していかなければならないと考えています。看護者と対象者の信頼関係の上に看護は存在しますので、看護の三要素である知識・技術・態度の領域は重要になります。ベッドメーカーキングひとつとっても、そこには動作一つひとつに根拠があり、見てすぐにできるものではないです。対象者にとっては、24時間の生活の場となり、安全・安楽性と同時に快適に過ごせるよう

美しく整える必要があります。特にベッドの角を作るのが苦労するところです。崩れにくい確実な角を作るには、その根拠の理解と繰り返しトレーニングが必要であり、そこから誠実さが培われると考えています。



本学の学生たちは、授業に集中できる学生が多く、学習習慣が身についています。保護者から遠く離れて生活する学生が多いですが、学生間の仲間意識は強く見えます。これは将来の目標に向かって勉強するという覚悟をしているからではないかと思えます。一方、アルバイトの影響で太陽が高いのに「おはようございます」と挨拶されたり、遅刻や欠席の目立つ学生に理由を聞

くと「学業以外に専念していることがあります」と返答されることがあります。留年すると保護者にも迷惑をかけることになり、本分を考えるよう指導する必要があります。

青年期にある低学年の学生は、職業の選択に悩みを抱え苦しんでいる場合もあります。札幌医科大学の大阪向日先生は、手間保存の法則という言葉を用いていますが、一人ひとりの学生に、手間をかけることが大切であり、学生への愛情と情熱、そして忍耐を忘れずに、学生と向き合っていきたいと考えています。そして、日野原重明先生の『これからのナースに実践してほしいこと』の著書に、ウィリアム・オスラー先生が看護師には、機転・清潔・寡黙・思いやり・やさしさ・明るさ、これら六つの要素をつなぐ慈愛の心の七つの徳があると云われたと述べています。実践の場に出た本学の卒業生がそうであるよう四年間の成長を見守っていききたいと思っています。

大学図書館へようこそ！

大学では9月18日から後期の授業が始まります。休み中地元に戻ってリフレッシュしてくる学生も多いことでしょう。ただ、前期試験の成績によっては途中で追試がありますので、長い夏休みを満喫するためにはきちんと合格点を取らなくてはなりません。

【9月の開館について】

- ・日曜日と敬老の日・秋分の日振替休日は休館です。
- ・短縮開館（9：00～17：00）となるのは次のとおりです。

9月1日（土）～8日（土）

◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654⑧7671(直通)



大学図書館にはこんな本があります

～「知」への誘い～からもう1歩～
看護師という職業を考える本を紹介します。



『看護の時代 看護が変わる医療が変わる』
日野原重明・川島みどり・石飛幸三/著
日本看護協会出版

『看護師という生き方』
宮子あずさ/著 筑摩書房

『その先の看護を変える気づき 学びつづけるナースたち』
柳田邦男・陣田泰子・佐藤紀子/著 医学書院

『イラスト図解 看護のしくみ』
叶谷由佳・木村憲洋/著 日本実業出版社